

## 千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

- プログラム概要 : 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
- 実習先 : ワークイン関前、ななほワークス、八幡作業所、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ
- 実習先情報 : 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
- 参加人数 : 8名
- 学部学科 : 会計がバックス学科、数理工学科、看護学科、社会福祉学科
- 実習期間 : 令和4（2022）年8月29日（月）～9月22日（木）
- 本学担当教員 : 本多 勇（通信教育部人間科学科）

### 千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ フィールドスタディーズ実習成果報告

社会福祉学科 2233118 藤本空夏晴

#### ○はじめに

私は今回、中高生を対象とするさくらんぼクラブと、小学生を対象とするさくらっこクラブという放課後デイサービスに実習に行かせてもらいました。

#### ○実習内容

さくらんぼクラブでの実習内容は、主に自由時間に利用者と一緒に遊んだり、曜日ごとに異なる活動に取り組むことでした。また、利用者が夏休みの間は、朝から夕方までの実習だったので、昼食を一緒に取ったり活動を二回しました。

曜日ごとの活動は、月曜日は運動、火曜日は音楽、水曜日はアート、木曜日は買い物、金曜日はレクリエーション（色形ゲーム）があり、一緒にゲームに参加したり、買い出しをするときにサポートしたり、ハンドベルやダンスをしたりしました。さくらんぼクラブの利用者は中高生なので、自由時間は本を読んだり、椅子に座ってリラックスしたり、職員に話しかける等、落ち着いた時間の過ごし方をする子が多かったです。

さくらっこクラブでの実習は、さくらんぼクラブとほとんど同じ内容でしたが、さくらんぼクラブに比べて自由時間が長く利用者の年齢も低いため、体力が必要でした。曜日ごとの活動は、月曜日は音楽、火曜日は運動、水曜日はアート、木曜日は音楽があり、一緒に参加して楽しみました。また、さくらっこクラブでは、毎日さくらんぼクラブに連絡帳などを渡しに行く交換便というものがあり、利用者数人と一緒にさくらんぼクラブまで歩いたり、帰り道に公園で遊んだりしました。

#### ○提案したこと、発信したこと、など

私が、実習先では学ぶことばかりで、自分から提案したり発信することは出来なかったです。同じ実習にいた大橋さんは、利用者の方が自由時間に遊ぶことができなく暇そうにしていた時に、イラストが描かれたカードを使ってオリジナルゲームを提案していました。私は、利用者の方が声をかけてくれたり、提案してもらわないと一緒に遊べなかったので、大橋さんの適応力は見習うところだなと思いました。

#### ○経験したこと、学んだこと、など

私が特に印象に残った経験は、子どもたちと近くのコンビニエンスストアに買い出しに行ったことです。三人のグループになって、買い物かごを持つ係・お財布を持って支払いをする係の三つの役割を決めるところには、利用者が自分の目的を達成することで少しでも自信になったらいいなという工夫があると職員の方から聞いて、一人で買い物に行けるようになるための活動ではなく、利用者の自信につながるための活動を考えることが本当の支援なのかなと思いました。

#### ○今後の展開、今後の学び、

私は18日間の実習を通して、もっと障害福祉について知りたいなと思いました。18日間では利用者の持っている障害についてや、家族の方々についてなど知ることが出来なかったのもっと自分で調べたり、もう一度放課後デイサービスにアルバイトやボランティアとして関わりたいです。

#### ○まとめ

私は、さくらんぼクラブとさくらっこクラブでの実習を通して、今まで関わることのなかった障害児支援を学ぶことができるとてもいい経験になりました。特に、障害福祉は利用者の持つ障害によって、対応の仕方や接し方が変わるので、職員の方々の利用者に対する接し方はすごく勉強になりました。

## ○はじめに

わたしは今回武蔵野市にある千川さくらんぼクラブ・千川さくらっこクラブという障害者の方の通う施設に行きました。そこは主に小学生から高校生までの子供が通っている施設でした。さくらっこクラブでは主に小学生、さくらんぼクラブでは主に中学高校生が通っていました。それぞれの施設に行ってみてかなりたくさん違いに気づくことができました。

## ○実習内容

実習内容としては自由時間と活動の時間に分けられる。自由時間では施設の子供たちに積極的に話しかけていき子供たちと遊ぶことができた。さくらっこクラブでは基本的に走り回ったり工作したりと運動をメインにした遊びをする子供が多い印象だったがさくらんぼクラブでは主に本を読んだりマグネットで遊んだりと机の上で遊ぶおとなしい子供が多かった印象だった。

さくらんぼクラブの活動の時間では週の曜日ごとに時間が決まっており月曜日は運動、木曜日は買い出しなどが決まっていた。活動ではチームにわけてチーム戦をすることによって友達と楽しむことをメインにしている印象だった。

さくらっこクラブでの活動の時間ではさくらんぼとは逆にあまりチーム戦という概念はなく個人個人でアートを作ったりみんなで音楽をしたりと戦うよりは楽しむ方が多かったかなと思った。

## ○経験したこと、学んだこと、など

経験したこととしては自分は障害を持つ子供達と関わる機会が今までなかったのもそういう子たちにどのようにかかわっていけばいいのかが最初わからなかったと感じた。しかし自分で考えつうの中学生や高校生と対等な接し方をすべきだと思った。対等な接し方をすることで相手も不快な気持ちをしなくて済むのではないかと考えた。

## ○まとめ

まとめとしては今回1か月間施設にいてみて障害者の方への認識が大きく変わったと思う。今後電車やお店などについて知的障害を持った方を見たとき今回のことを思い出して他の人にも教えていきたいと思う。

## ○担当教員コメント

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

藤本さんは、自身の中の「思い込み」や「偏見」に気づくことができました。関わり方についても気づきがあったようです。大橋さんは、子ども達との関わり方に工夫をもって接していました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

# 千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

プログラム概要	： 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
実習先	： ワークイン関前、ななほしワークス、八幡作業所、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ
実習先情報	： 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
参加人数	： 8名
学部学科	： 会計ガバナンス学科、数理工学科、看護学科、社会福祉学科
実習期間	： 令和4（2022）年8月29日（月）～9月22日（木）
本学担当教員	： 本多 勇（通信教育部人間科学科）

## ワークイン中町 フィールドスタディーズ実習成果報告

### 社会福祉学科 2233104 川島由華子

#### ○実習場所

ワークイン中町

#### ○実習内容

- ・ 10数え、帳合、封入、封緘、ラベル貼り、折り作業
- ・ テーブル拭き（作業後、昼食前後） ・ 昼食後のおぼんの消毒、清掃
- ・ 利用者が退出後の清掃 ・ 利用者の方のサポート ・ アート活動

#### ○目標

利用者さんとコミュニケーションを多くとり、たくさんの方と関わっていく。

#### ○大変だったこと

利用者さんの中に毎回同じ言葉で何度も話しかけてくる方がいらっしゃり、その方にどのように接したらよいか分からず、最初は戸惑ってしまいました。無視をしてしまうこともあった。職員の方に接し方を聞いて、真似たらその人と会話をするのが楽しくなった。

作業中に利用者さんに声掛けを行った際、反応してもらえないことがあった。ジェスチャーをしたり、背中をポンポンと叩くと反応して伝わってくださった。

#### ○事業所が行っていた工夫

毎週火曜日にアート活動を行っており、利用者さんが塗った色味を見てこのイベントや行事を知っているか、家で行っているかどうかを確認するきっかけになることを知った。

#### ○自分が行なった工夫

利用者さんに話しかけにくく前半は個人間の会話をする事なく、見守っていたり観察していたことが多かった。後半は自分から話せそうな方に話しかけ、利用者さんのことをたくさん知ることができた。日にちが経つと今度は利用者さんの方から駆け寄ってくれ話しかけてくださった。自分のことをお話の出来る相手として認知してくれたのが嬉しかった。

#### ○重要だと思ったこと

利用者さんが行う行動はすべて受け入れるのではなく、注意すべきことは注意すべきだと思った。また、利用者さんがパニックになったり、落ち着きのない状態になったときは他の利用者さんに危害が加わらないよう職員全員で連携して全員で守っていく姿勢は重要だと感じた。

#### ○感想と課題

利用者さんと一緒にコミュニケーションをとったり関わったことで健常者と喜びや笑いは一緒なのだ気付かされ、障害を持つ方への向き合い方が変わった。障害を持つ人に関わることは今までになかったがこれから障害を持つ人に会ったときは自分から関わりに行き、積極的にコミュニケーションをとっていきたい。

### ○はじめに

今回の実習を選んだ理由としては将来、教職員になることが夢であり、そのためには多くの人と話す機会を増やし、特別支援学校に赴任するとなっても焦らず対応したいという目標があったため武蔵野千川福祉会での実習を希望しました。

### ○実習内容

主にダイレクトメールや新聞の封入、封緘。  
千川福祉会の作業所によって異なるが、ワークイン中町では毎週火曜日にアート活動（写し絵や塗り絵、まれに書道）を行った。

### ○提案したこと、発信したこと、など

今回の実習では提案、発信したことは無いが、自分の意見はどんなことでも発信していく方がよい。例えば、利用者さんが自分の嫌がることをしてきたときに障がいを持っているから仕方ないと思うのではなく、利用者が外に出てもトラブルを起こさないための大事な機会であるので自分自身の意思表示が非常に大事になる。

### ○経験したこと、学んだこと、など

「知的障がい」を持った方々との接し方（接するパターンをいくつか持ってどの接し方が最も相手が接してくれるかを見る）を学び、普段普通に生活していれば出会うことが少ない方々との関わりが、最も大きな学びになった。

### ○今後の展開、今後の学び、など

今後他の人との接し方の発見方法として、今回学んだ接し方を活用して最適解を見付ける。また、障害を持った方との会話や対応方法は、少し知識や経験を得ることができたので、今後は是非活かしていきたい。

### ○まとめ

人とコミュニケーションをとることが苦手だったが、今回の実習でまったく関わりのない人とコミュニケーションをとったことで教師になるために必要なスキルを身に付けられたということを感じた。

-----

### ○担当教員コメント

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。  
川島さんも下地さんも、利用者とのコミュニケーションについての工夫をさまざまに試して、関わりに変化が出たことの経験があったことが、事後学修でも伝わってきました。  
今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

# 千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

- プログラム概要 : 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
- 実習先 : ワークイン関前、ななほしワークス、八幡作業所、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ
- 実習先情報 : 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
- 参加人数 : 8名
- 学部学科 : 会計がバカンス学科、数理工学科、看護学科、社会福祉学科
- 実習期間 : 令和4（2022）年8月29日（月）～9月22日（木）
- 本学担当教員 : 本多 勇（通信教育部人間科学科）

## ワークイン関前 フィールドスタディーズ 実習成果報告

### 社会福祉学科 2233036 佐藤莉寧

#### ○はじめに

私たちはワークイン関前で18日間実習をしました。  
18日間を通して知的障害を持っている方々がどのように働いているか学びました。

#### ○1日のスケジュール

～8:45 出勤

9:00～ 朝の会（出欠確認、仕事の確認などをします）

朝の会が終わって次第作業する机に集まり、もう一度詳しく仕事の確認をしてからお仕事を始めます

12:00～ 昼食

13:00～ お昼の会をした後、作業を始めます

15:00～ 休憩

15:15～ 作業

16:45～ 係活動（掃除をします）

17:00～ 帰りの会

#### ～作業の具体例～

- ・丁合・封入・封かん・検査
- ・ラベル貼り など



#### ★利用者と職員

利用者→就労移行支援事業所で自立訓練や就労支援などを受けながら働きます

職員→自立訓練、就労支援などをお手伝いします

#### ○楽しかったこと

この活動期間中は毎日利用者さんの新たな一面を知ることができてとても楽しかったです。お楽しみ会のような形でカラオケをしたのですが、仕事とは違った皆さんの新たな姿を知ることができて良かったです。

#### ○気づいたこと・学んだこと

ここで作業をするまでは利用者に職員がつきっきりで支援をしているのかと思っていました。実際は、してほしいことを言葉やジェスチャーで伝えるなどをしてその後の行動は利用者のみでしているところを何度も見ました。すべての行動に力を貸すのではなく、あくまで自立の支援として行動を見守っていることに気が付きました。

できないことをできなかったで終わらせるのではなく、どのようにしたらできるのか職員が工夫をしていました。このように、その人の力を発揮できるようにサポートしていくことが大切だと学びました。

#### ○まとめ

皆さん一人一人に得意・不得意があり、得意なことを生かして苦手なことは克服できるように職員と努力をしていました。毎日新しい発見があってとても楽しかったです。そして、知的障害についてまだまだ理解がされていないですが興味を持ったり、関わったりすることで障害を持った本人もご家族も生活しやすい世界になれると思いました。

日本に来て、変わらない日常であり、前に一步を踏み出せない。また、人とコミュニケーションの機会が少なく、新たなことを挑戦したいので、「武蔵野千川福社会」を選んだ。最初に、ワークイン関前に行く前に、緊張しすぎて、一度に逃げようと思うこともあった。やむを得ない、自分弱みを真正面に向かえる。

初めに、利用者たちは、何を言うのか、よくわからない。例えば、言うこと伝えない、同じ言葉を繰り返す。また、意味不明に歌を歌い、大声で話し、私にびっくりさせた。自分は何を間違ったのか、心配した。係の手伝い、と長い間の付き合いのもとで、人の名前と顔を覚え、性格も知った。交流の方面に、大きい壁があるが、利用者の動きをよく見て、仕事の流れも知っている上で、彼らを助け合う。

最後の日に、私と佐藤さんは、利用者たちに一人ずつ手作りを送れた。自分が作った歯車は、いい評価が得た。その後のカラオケ大会で、利用者たちの違う側面を知った。

外国人としての私、日本人と交流するのは難しく、この視点で利用者たちの心を理解できる。また、利用者たちは簡単な仕事だが、一生懸命に働いている。差別が感じられない、私と同じような全力でくらす。

FSを通じて、日本社会に接触した。礼儀が多い国と思い、違う文化なので、大変だった。今回の経験で、未来日本に就職することに役立つと思う。

----

#### ○担当教員コメント

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

龍さんは、留学生としての立場で感じる日本社会での生活しづらさと、障がいのある方々の生活のしづらさを重ねながら、学びを深められていたのが印象的でした。

佐藤さんは、積極的に利用者の皆さんと関わり、さまざまなコミュニケーション方法があること、毎日の違いを読み取っていたことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

## 千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

プログラム概要	: 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
実習先	: ワークイン関前、ななほしワークス、八幡作業所、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ
実習先情報	: 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
参加人数	: 8名
学部学科	: 会計がバンス学科、数理工学科、看護学科、社会福祉学科
実習期間	: 令和4（2022）年8月29日（月）～9月22日（木）
本学担当教員	: 本多 勇（通信教育部人間科学科）

### ななほしワークス フィールドスタディーズ実習成果報告

2263086 看護学部看護学科 宮田結花

#### ○はじめに

今回私が実習させていただいたのはななほしワークスという生活介護事業所です。年齢も障がいも異なる15人の利用者の方々が活動する事業所で18日間にわたって実習させていただき、様々な学びと気づきを得ることが出来ました。

#### ○実習内容

主に、利用者さんが行っている作業と一緒に参加させていただき、障がいを持った方々がどのように日々を過ごし、社会に参加しているのかを学ぶことが出来た。他にも、買い物や図書館までのウォーキングなど、仕事だけでなく、より生活に近い活動にも参加することが出来た。

#### ○経験したこと、学んだこと、など

今回特に学んだことは、様々な利用者さんが同じ場所で生活する中で、どうしてもお互いに譲れない部分が出てきてしまったときにどちらも尊重してお互い納得できるにはどのように声をかける必要があるのか、ということである。

#### ○今後の展開、今後の学び、など

今回、初めて実習生という立場で人と関わることが出来、実習での自分を客観的に振り返り、学べたことは今後の実習にも活かせると感じた。今後の実習では更に自分の行動を振り返ることが出来るように何事も意識して行動に移そうと思った。

#### ○まとめ

今回、このような実習に参加することが出来、上記の様な学びを得られたことで今後の実習でどのようなことに気を付ければよいのかなど、実習における基本的なことから福祉がどのような場所で社会に関わっているのかという具体的な学びまで得ることが出来、とても充実した期間だった。

#### ○担当教員コメント

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。利用者の方の社会参加や、支援者としての自己理解についても気づきがありました。今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

## 千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

プログラム概要	： 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
実習先	： ワークイン関前、ななほしワークス、八幡作業所、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ・さくらっこクラブ
実習先情報	： 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
参加人数	： 8名
学部学科	： 会計がバンス学科、数理工学科、看護学科、社会福祉学科
実習期間	： 令和4（2022）年8月29日（月）～9月22日（木）
本学担当教員	： 本多 勇（通信教育部人間科学科）

### 八幡作業所 フィールドスタディーズ実習成果報告

#### 社会福祉学科 2233007植村心咲

##### ○はじめに

私は、武蔵野千川福祉会八幡作業所で実習をしました。八幡作業所では、成人の知的障害がある方たちと、一緒に仕事をしました。主な仕事内容は、ダイレクトメールの丁合、封入、封緘、ラベル貼りです。また、完成したダイレクトメールを納品するところまで利用者が一緒にやります。

##### ○実習内容

知的障害のある方たちと仕事をする。

##### ○実習に行く前と行った後での変化

職員の人が介入しなくても自分たちでできることが沢山あるということを感じました。また、集中力や手先の器用さは、障害のない人とそれほど変わらないという印象を持ちました。

##### ○作業所の工夫

利用者が仕事をやりやすくするような工夫がいくつか見られました。

1つ目は、見本を置くことです。透明なシートの下に見本を置くことで、自分で見本を見ながら作業をすることが出来ます。

2つ目は、道具の名前を統一することです。仕事で使用する道具の名前を職員と利用者との間で統一することで、1人1人が自分の仕事で使う道具を準備します。

##### ○経験したこと、学んだこと、など

障害があるから特別扱いするということではなく、やってはいけないこと、やるべきことができている時は職員が指導をしていました。また、必要以上に手助けをすることは利用者の成長を妨げてしまうということ学びました。職員の支援や指導が、利用者の考える力を伸ばしていると感じました。

##### ○今後の展開、今後の学び、など

障害のある人たちがどのような働き、暮らしをしているのか知ることができ、社会の一員として働いているということが分かりました。障がい者と聞くと、マイナスなイメージを持っている人もいます。しかし、マイナスなイメージは一切感じられませんでした。障害のある、ないに関わらず1人の人間として社会全体が捉えていければ良いなと思いました。

##### ○まとめ

知的障害のある方たちと一緒に働くことでいろいろな気づきが得られました。私たちの家に送られてくるダイレクトメールなどの郵便物は障害のある方たちが手作業で封緘をしているということを知って、意外と身近に感じられました。作業をしてみた感想は、誰でもできる簡単な作業だけど最初の内はコツが必要だったり、立ち仕事で体力を使うなと感じました。

##### ○担当教員コメント

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。利用者の方の得意不得意を見るアセスメントの視点や、支援や関わり方の「根拠」についても学びや気づきがあったようでした。今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。